

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	北但広域療育センター 児童発達支援センター「すまいる」		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 26日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	88	(回答者数) 50
○従業者評価実施期間	2025年 9月 18日		2025年 10月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ご本人や、ご家族の思いに寄り添いながら園、福祉、医療、相談支援事業所などと連携を取り、利用者主体の支援を心掛けている。	・ご本人やご家族の思いをしっかりと聞きし、思いに寄り添うサポートができるように努めている。 ・センターとしての役割を意識しながらご家族を中心に関係機関との情報共有等、連携を大事にしている。 ・事業としての立ち位置を考えつつ、本人の最大の利益となるように連携を取るよう心掛けている。	・職員一人ひとりが地域の資源となるように更なる資質向上を目指していく。 ・事業ごとの役割や窓口を明確にすることで連携しやすい組織づくりを強化する。
2	・多くの事業があるため、多職種連携しやすい環境である。 (訪問支援・放課後デイ・相談支援・クリニック)	・訪問支援や療法士による個別を利用の際には、グループ療育での様子を共有したり反対に訪問支援や療法士個別の様子を聞くなど専門職の様々な視点を持って支援に繋げている。 ・必要に応じて、併設されたクリニックをご案内したりセルフプランの方の後方支援として相談員に繋ぐなどの連携をしている。	・引き続き、支援の充実を図るために職員間で話し合う時間を持つようにする。 ・今後も必要に応じて訪問支援専門員・療法士や心理士、相談員とも連携をとる。
3	・個々に合わせた根拠のある専門的な支援を行っている。	・アセスメントでしっかりと本人の強みや課題を把握してうえで、強みを活かして「わかった」「できた」につながる支援を行なうよう心掛けている。 ・支援方法や活動の進め方などは、個別の支援計画の内容を共有しながらチームで検討している。 ・事前、事後のカンファレンスで多角的な視点も大事にしながら取り組んでいる。	・プログラムが固定化していないかの見直しや、個別支援計画に基づいた支援が提供できるように努める。 ・引き続き職員研修を受けて、より支援の向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者学習会やイベント等を計画して事前に案内をさせてもらっていても参加が少ない傾向にある。 (保護者支援や、きょうだい児支援の更なる努力が必要)	・平日、お仕事されている保護者がほとんどで休みの調整や子どもの迎えの時間とのすり合わせがしにくそう。 ・案内がわかりづらい時もある。	・現代の生活様式に合わせた案内や開催の工夫が必要。 (開催日や時間枠の再検討やオンラインを活用するなど) ・メールなどの発信と合わせて掲示もしていく。その際、保護者が見やすい場所に掲示する。
2	・地域とのつながりが少ない。	・関係機関や他事業所とのつながりが、まだ十分でない。	・関係機関や他事業所との連携を強化していきながら、センターとしての役割(中核機能)を再構築していく。
3			